

活断層調査(第四紀断層調査)

川上ダム周辺の地質について
河川管理者提供資料2

～活断層のダムへの影響～

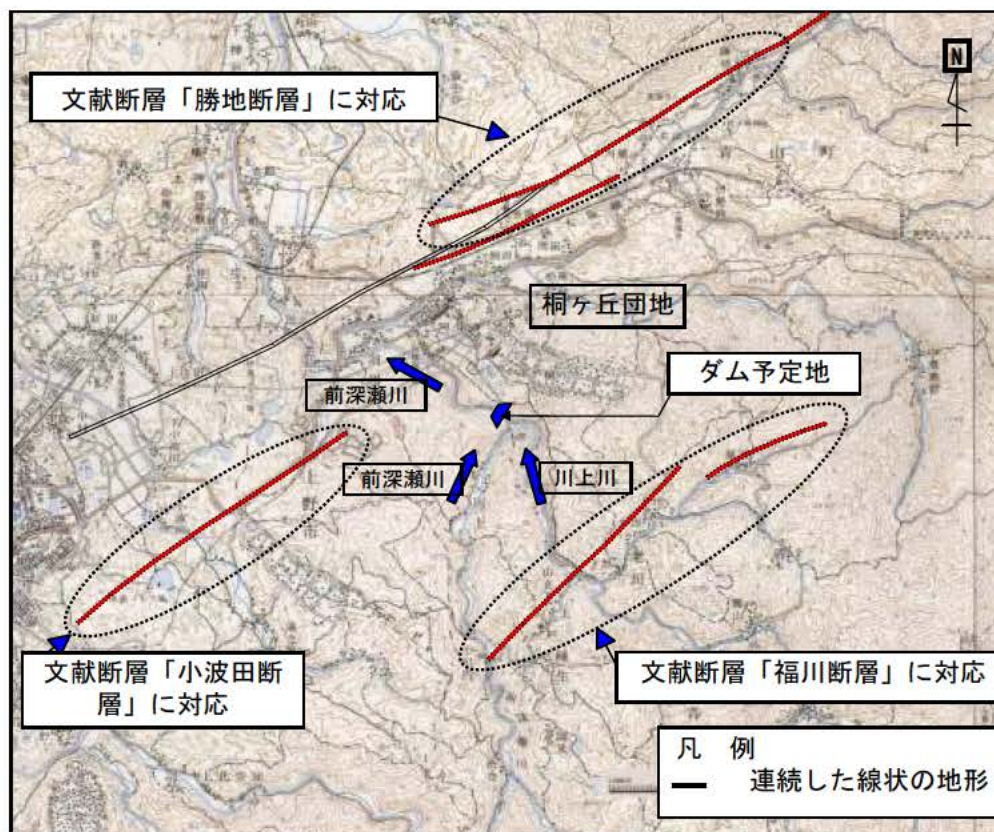
ダムの設計においては、活断層がずれ動いて地震が発生した場合の影響について、以下の対応を行います。



→ 周辺で大地震が発生してもダムに影響が生じないようダムの耐震性を高めること(耐震設計)で対応します。

→ 活断層を避けてダムの位置を選定することで対応します。

文献調査、空中写真、地形図の判読によりダム敷から半径3kmの範囲で活断層の可能性のあるものとして右図の3つを抽出し、現地踏査を実施。その結果、3つとも活断層としての明確な証拠が得られず、また、これら連続した線状模様は、ダム予定地を通ったりダム予定地に向かったりしてはいない。仮に活断層であったとしても、ダムに対しては直接的にズレを生じさせるものではなく、耐震設計によりダムの安全性を確保することで、ダムの安全性には全く問題ないという調査結果を得ています。



地すべり調査

貯水池周辺の地すべり対策について、空中写真や地形図の判読、現地踏査等を行い、地すべり地形の疑いがあり、道路等への影響が懸念されるものとして下図の3箇所を抽出。いずれも地形的に規模も小さく、その位置も高標高に位置しており、湛水影響の可能性は低いものと想定しています。

